

令和6年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立門前高等学校

重点目標 1 「門前町・總持寺通り商店街の復興」をテーマとした3年間の系統的探究活動に取り組むことで、教員・生徒が学習や部活動時の下支えとなる「探究力」を育成する。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	
・地域復興に貢献する資質・態度の育成	・復興をテーマとした「総合的な探究の時間」の充実 ・復興に向けた地域との連携	教務課 各学年	・探究活動を通して、関係機関と連携し、門前地域特有の歴史や文化を学び、この地域の強みを理解することで、地域の復興に貢献しようとする主体的態度を育成する。 ・フィールドワークを通して、現状やニーズを知り、門高生だからできるハード・ソフト両面からの復興支援を提案し、実践する力を身に付ける必要がある。	【成果指標】（教員） 探究活動を通して、地域復興について具体的な考えを発信させることができた。	「探究活動を通して、地域復興について具体的な考えを発信させることができた」と評価した教員の割合(①+②)が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① できた ② 概ねできた ③ 余りできなかった ④ 全くできなかった	教員対象調査 (7、1月)
				【成果指標】（生徒） 探究活動を通して、地域復興について具体的な考えを発信することで、将来、同じ体験をすることがあった際につなげることができた。	「探究活動を通して、地域復興について具体的な考えを発信することで、将来、同じ体験をすることがあった際につなげることができた」と評価した生徒の割合(①+②)が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① できた ② 概ねできた ③ 余りできなかった ④ 全くできなかった	生徒対象調査 (7、1月)
・ボランティア活動による地域・他者貢献意識の高揚	・總持寺参道清掃 ・地域ボランティアへの参加 ・年賀状作成 ・各種地域行事への参加	総務課 生徒会 各学年	・地域のボランティア活動やイベントに積極的に協力することで、他者や地域貢献の精神を涵養する。	【満足度指標】（生徒） 参道清掃や被災地域でのボランティア活動への参加等を通して、「地域貢献の心」「被災者への思いやりの心」「協働する心」が育った。	「参道清掃や被災地域でのボランティア活動への参加等を通して、「地域貢献の心」「被災者への思いやりの心」「協働する心」が育った」と答えた生徒の割合(①+②)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できた ② だいたいできた ③ 余りできていない ④ 全くできていない	生徒対象調査 (7、1月)

重点目標2 GIGAスクール構想をとおして、低学年次より個別最適な学びに取り組ませながら、両コースの特性の充実と資格取得と学力向上を図り、卒業後の生徒の多様な進路実現につなげる。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考									
<ul style="list-style-type: none"> 低学年次から、一人1台端末やタブレット等の教育ICT環境を活用した反転学習に取り組み、「個別最適な学び」の充実による学力の向上を目指す 	<p>【両コース共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を前提とした反転授業 習熟度別授業 朝学習 放課後補習 個別指導 <p>【普通コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 模試の振り返り <p>【キャリアコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種資格取得 	進路指導課 教務課 GIGA校内推進リーダー 各学年 各教科	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣が定着できておらず、学習内容の定着が十分にできていない。 教員のICT(端末機)を用いた反転授業への取り組み率が低い。 主に大学進学を目指す生徒へ個に応じた学習指導力の向上が求められている。 	<p>【成果指標】(生徒)</p> 普通コース：学習支援ソフトを取り入れた反転学習により、模試の成績が伸びた。	普通コース：模試の年度始めと年度末の学力レベルの値を比較し、成績が上昇した生徒数の割合で評価 【1年生】3教科(国・数・英)のGTZ値 対象：4月スタディーサポートと1月進研模試 【2年生】5教科(国・数・英・理・社)のGTZ値 対象：4月スタディーサポートと1月進研模試(国・数・英)、10月進研模試と1月進研模試(理・社) A 70%以上 B 60%以上 C 60%未満	対外模試結果									
				<p>【成果指標】(生徒)</p> キャリアコース：各種検定試験に合格できた。	キャリアコース：各種検定試験(各種商業科検定・福祉科資格等)の合格者数の割合で評価する A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	各種検定試験結果									
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の思考力・判断力・表現力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 門高読書タイムや図書館講座の実施 	教務課	<ul style="list-style-type: none"> 読書活動を通して生徒の思考力・表現力・判断力の下支えとなる力を養成する必要がある。 	<p>【成果指標】(生徒)</p> 「読書タイム」で読んだ本についての感想や考えをアウトプットすることができた。	「読書を通じて自分の感想や考えをアウトプットすることで、思考力や表現力が高まった」と答えた生徒の割合(①+②)が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>高まった</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>概ね高まった</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>余り高まらなかった</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>全く高まらなかった</td> </tr> </table>	①	高まった	②	概ね高まった	③	余り高まらなかった	④	全く高まらなかった	生徒対象調査(7、1月)
①	高まった														
②	概ね高まった														
③	余り高まらなかった														
④	全く高まらなかった														
<ul style="list-style-type: none"> 進路意識の醸成と早期確立 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師によるキャリア教育講演会 ふるさと事業 企業人インタビューDVDの活用 インターンシップ 進路ガイダンス 進路学習 出張オープンキャンパス 地元企業見学会 アントレプレナーシップ事業 	進路指導課 各学年	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの意味や自分の適性を理解し、将来の進路設計を立てる力を早期より養成する必要がある。 	<p>【成果指標】(生徒)</p> 自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになった。	「自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができるようになった」と評価した生徒の割合(①+②)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>できるようになった</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>だいたいできるようになった</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>ほとんどできない</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>全くできない</td> </tr> </table>	①	できるようになった	②	だいたいできるようになった	③	ほとんどできない	④	全くできない	生徒対象調査(7、1月)
①	できるようになった														
②	だいたいできるようになった														
③	ほとんどできない														
④	全くできない														

重点目標3 「危機管理マニュアル」の見直しを図り、教員・生徒が非常時に適切な行動ができる資質・能力を高め、減災につなげる。また、生徒が安心して学校生活を送れるよう安全管理を徹底する。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	
・各種有事に即した危機管理マニュアルによる、生徒・教員の安全の確保	・有事に即した危機管理マニュアルの見直し ・減災につながる、大規模地震を想定した訓練の実施 ・特別支援学校との合同訓練 ・減災の観点による、施設の復旧状況に応じた避難経路の更新 ・訓練後の振り返りの実施 ・生徒の危機管理意識の啓発	総務課	・今回の震災により、危機管理マニュアルが有事に即した内容とは言い難いことが判明した。 ・生徒、教職員の有事の際の危機管理意識が乏しい。	【成果指標】（教員） 有事の際、生徒・職員の安全を確保する術を身につけており、減災につなげる行動ができる。	「有事の際、生徒・職員の安全を確保する術を身につけており、減災につなげる行動ができる」と答えた教員の割合(①+②)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる ② 概ねできる ③ 余りできない ④ 全くできない	教員対象調査(7,1月)
				【成果指標】（生徒） 有事の際、安全を確保する術を身につけており、減災につなげる行動ができる。	「有事の際、安全を確保する術を身につけており、減災につなげる行動ができる」と答えた生徒の割合(①+②)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる ② 概ねできる ③ 余りできない ④ 全くできない	生徒対象調査(7,1月)
・各種有事を意識した定期的な安全点検	・防災の観点による日常の安全点検の実施 ・定期的な安全点検の実施(毎学期) ・有事後の安全点検の実施	保健指導課	・このたびの震災で学校施設の破損が生じていることから、きめ細やかな安全点検を実施し、生徒・職員の安全確保に努めていく必要がある。	【成果指標】（教員） 安全管理への意識を高め、日常・定期・有事の安全点検を確実に実施することができる。	「日常・定期・有事の際の安全点検を、きめ細やかな視点を持って実施することができる」と答えた教員の割合(①+②)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる ② 概ねできる ③ 余りできない ④ 全くできない	教員対象調査(7,1月)

重点目標4 組織的・協働的に目標管理型校務運営による業務改善を進め、ワークライフバランスと教育活動の両立を実践する。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	
・目標管理型の校務運営による、効率的・戦略的分掌業務の成果目標達成	・左記の目標達成に向けて、到達度を数値で測り、仕事の質を向上させる	各課 各学年	・目標達成度が曖昧なため、分析が緩く、対策が不明瞭である。	【成果指標】（教員） 目標管理型の校務運営によって、数値目標達成に努めることで、個々の教科指導、分掌・学年業務の資質・能力を高めることができた。	「目標管理型の校務運営によって、数値目標達成に努めることで、個々の教科指導、分掌・学年業務の資質・能力を高めることができた」と答えた教員の割合(①+②)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	① できた ② 概ねできた ③ 余りできていない ④ 全くできていない	教員対象調査(7,1月)
・教員の働き方改革の推進	・最終退校時刻の遵守 ・定時退校日の個人設定(各月1日) ・業務振り返りシートの作成	全教員	・ワークライフバランスの重要性を理解して、退校時間を意識した業務推進を更に徹底する必要がある。	【成果指標】（教員） なぜ最終退校時間を遵守するのかを理解し、各分掌・学年・教科の優先順位をつけて計画的かつ効率的に校務を行っている。	「なぜ最終退校時間を遵守するのかを理解し、優先順位をつけて計画的かつ効率的に校務を行っている」と答えた教員の割合(①+②)が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	① 行っている ② 概ね行っている ③ 余り行っていない ④ 全く行っていない	教員対象調査(7,1月)

重点目標5 「震災後のこころのケア研修」等の教育相談的研修等をとおして、教員の「相手の気持ちを押し量る力」を高め、生徒理解力、教育相談力向上につなげる。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	
・いじめの早期発見・早期対応	・いじめに関する校内研修 ・生徒観察、生徒との人間関係づくりによる早期発見・早期対応 ・いじめ調査の実施	生徒相談課	・「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち、未然防止に尽力する。	【成果指標】（教員） 研修会等でいじめ問題について理解を深め、予防的な生徒指導に結び付けている。	「研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的な生徒指導に生かしている」と答えた教員の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 生かしている	教員対象調査 (7,1月)
						② 概ね生かしている	
						③ 余り生かしていない	
						④ 全く生かしていない	
・被災した生徒の心理的ケアを行い、安心して学校生活を送る	・「震災後のこころのケア研修」等の教育相談的研修への参加 ・「気づき票」の活用 ・個人面談の実施 (担任・学年・相談担当・SC等)	生徒相談課	・震災による心理的影響の程度に大きな差がある	【成果指標】（教員） 「震災後のこころのケア研修」等の研修によるスキル向上に努め、生徒の心に寄り添う、きめ細やかな対応をしている。	「「震災後のこころのケア研修」等の研修によるスキル向上に努め、生徒の心に寄り添う、きめ細やかな対応をしている。」と答えた教員の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① している	教員対象調査 (7,1月)
						② 概ねしている	
						③ 余りしていない	
						④ 全くしていない	
・多様な生徒に対応できる教員の教育相談的資質能力を高める	・「気づき票」の活用 ・個人面談の実施 (担任・学年・相談担当・SC等) ・校内研修会 (毎月の職員会議におけるケース会) (夏期休業中のSCによる研修)	生徒相談課	・組織的対応のための情報共有をより確実にすること、教師の深い生徒理解に基づく配慮・相談支援体制の構築と実践が急務である。 ・若手教員を中心に、多様な生徒に対応できる教育相談的資質能力を高める必要がある。	【成果指標】（生徒） 1人ひとりの教員が、生徒の困り感を察知し、適切な声かけや親身になって相談に応じてくれるなど、安心して学校に通うことができる。	「1人ひとりの教員が、生徒の困り感を察知し、適切な声かけや親身になって相談に応じてくれるなど、安心して学校に通うことができる。」と答えた生徒の割合が(①+②)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できている	生徒対象調査 (7,1月)
						② 概ねできている	
						③ 余りできていない	
						④ 全くできていない	
・スマートフォン等を安全に便利に使用する力を育成する	・生徒アンケートに基づく研修を通じた共通理解と指導 (アンケート(7月実施)) (研修(8月職員会議で実施)) ・全教員による校内ルール徹底の指導	生徒相談課	・「自分にとって危険である」「自分にとって妨げになる」といった意識を持ち、自制する力を身に付ける必要がある。	【成果指標】（教員） 生徒がスマートフォン等を自分で正しく使う力が身に付けられるよう指導した。	「危険が無いか、トラブルが起こらないか、自分の本来行うべきことの妨げになっていないかを生徒自身が考えて、スマートフォンやクロムブックを使用できるように指導している。」と評価した教員の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① している	教員対象調査 (7,1月)
						② 概ねしている	
						③ 余りしていない	
						④ 全くしていない	
・スマートフォン等を安全に便利に使用する力を育成する	・生徒アンケートに基づく研修を通じた共通理解と指導 (アンケート(7月実施)) (研修(8月職員会議で実施)) ・全教員による校内ルール徹底の指導	生徒相談課	・「自分にとって危険である」「自分にとって妨げになる」といった意識を持ち、自制する力を身に付ける必要がある。	【成果指標】（生徒） スマートフォン等を自分で正しく使う力が身に付いた。	「危険が無いか、トラブルが起こらないか、自分の本来行うべきことの妨げになっていないかを考えて、スマートフォンやクロムブックを使用している」と答えた生徒の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	① している	生徒対象調査 (7,1月)
						② 概ねしている	
						③ 余りしていない	
						④ 全くしていない	
・あいさつの習慣化	・あいさつ運動(交通安全指導と同時に)の実施 ・登下校時の指導において、あいさつを励行する ・教員によるあいさつの率先垂範 ・社会生活と結びつけて、あいさつの必要性を指導する	生徒相談課	・自己表出が得意な生徒と苦手な生徒との差が大きい。	【成果指標】（教員） あいさつを率先励行した。	「あいさつを率先励行している」と答えた教員の割合(①+②)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① している	教員対象調査 (7,1月)
						② 概ねしている	
						③ 余りしていない	
						④ 全くしていない	
・あいさつの習慣化	・あいさつ運動(交通安全指導と同時に)の実施 ・登下校時の指導において、あいさつを励行する ・教員によるあいさつの率先垂範 ・社会生活と結びつけて、あいさつの必要性を指導する	生徒相談課	・自己表出が得意な生徒と苦手な生徒との差が大きい。	【成果指標】（生徒） 学校内外問わず、積極的にあいさつができる。	「学校内外問わず、積極的にあいさつができた」と答えた生徒の割合(①)が A 50%以上 B 40%以上 C 35%以上 D 35%未満	① できた	教員対象調査 (7,1月)
						② 概ねできた	
						③ 余りできなかった	
						④ 全くできなかった	